

令和3年度

岩倉中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、身に付いたことを生かして課題解決を図ろうとする生徒の育成
- 自ら学習計画を立て、意欲的に学習しようとする生徒の育成
- 思考力・判断力・表現力を高めるための授業実践
- 個に応じた指導の改善とICT機器の活用等の指導の改善

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
平田 京子	校長 江藤 将 教頭 河野 昭一 教務 佐藤 秀樹 1学年主任 宇民としえ 2学年主任 松原 梢 3学年主任・研修主任 平田 京子

校長 江藤 将

【小中連携または中高連携における共通の取組】

生徒の変容を生み出す授業作りに取り組む。

【各校の取組状況の把握について】

全教職員が学力に関わる課題や情報を共有し、学校として重点的に取り組む内容を明確にする。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○真面目な学習態度で、こつこつ素直に努力し、課題にも熱心に取り組むことができる。 ●教科によって学力に二極化傾向が見られるため、基礎・基本の定着を徹底する必要がある。	・自ら進んで学習に取り組む生徒 ・学習時間を確保し、主体的に家庭学習に取り組む生徒 ・課題解決をめざし、粘り強く課題に取り組める生徒	・各教科で小テストを実施し、理解度を把握するとともに、基礎学力が定着するよう個別指導や授業研究を行う。 ・「家庭学習の友」や「家庭学習の手引き」を使い、家庭の協力を得ながら学習ルールを明確にする。 ・朝の学習の時間を活用して、読書で読解力を高め、ドリル等を使用し、教科の基礎・基本の定着を図る。	・自分の苦手な分野を克服するため、疑問点を質問したり、間違っ課題をどこでつまづいているかを復習したりする習慣を身に付けさせる。	・小テスト合格を目指し、家庭学習に励み、繰り返し課題練習に取り組む姿が多く見られるようになった。 ・家庭学習での課題の出し方を工夫するなどし、基本的な問題への理解は定着している。	・基礎学力の定着を図り、その重要性を自覚させ、自主的な学習意欲を高める取り組みを実践していく。 ・発展的な課題への理解は、個人差が大きいので、協働的に粘り強く取り組める力を育てていきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題を解決するために、自分の考えをまとめたり、表現を工夫したりして取り組もうとしている。 ●考えや意見を伝えることに課題が見られるため、相手にわかりやすく伝える手段や方法を身につける必要がある。	・授業中、目的に応じ根拠や理由を明確にしなが意見の表明ができる生徒 ・相手の発言の意図を捉えながら聞いたうえで、相手の考えを受け入れ、自分の考えをもつことができる生徒 ・身についた知識や技能を課題解決に生かすことができる生徒	・授業中、タブレット等のICT機器、ホワイトボード、ペア学習や思考ツール等を活用し、効果的に意見を交換する授業展開の工夫をする。 ・学習終了時に、自己評価表を用いたり、各学期末に学習アンケートを実施したりして、生徒個々に学習の振り返りをさせる。 ・知識や技能を生かすことができる課題解決の機会を設定する。	・教師間で、お互いの授業参観を行い、生徒が活発に自分の意見を発表しやすい授業形態を考え合う。 ・ICT機器の活用方法を、教師間で共有し合う。	・授業中、意欲的に自分の意見を発表できる生徒が増えてきている。 ・自分の意見を、理由を的確に述べながら発表するよう心がけることができている。	・さらに授業での発表の機会を増やす工夫を行う。 ・的確に自分の意見を伝えられるように、自分の考えを論理的にまとめたり、わかりやすい発表ができるように練習させる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○朝の学習や家庭での自主勉強ノートには真面目な態度で主体的に取り組んでいる。 ●自分の将来を見据えた学習への取組ができていない生徒もおり、主体的な学習の定着に至っていない。	・自己実現のために、今、自分が成すべきことをしっかり考え、学ぶことの意義を見出し、実行できる生徒 ・自己の課題を見つけ、課題解決の方法を学ぶ中で、学習することの楽しさ、学ぶことの喜びを感じることでできる生徒	・「キャリア・パスポート」「家庭学習の友」「家庭学習の手引き」等を効果的に活用し、保護者との連携を図りながら、将来の職業選択を視野に課題解決学習の習慣化を図る。 ・本校の学習目標である「三びきのカエル(かんガエル・まちガエル・ふりカエル)」を常に意識した授業展開を考える。	・家庭でゲーム・スマホなどを使用している時間が多いので、実態の把握を行い、ゲームやスマホをしない日を作ったり、使用時間を減らしたりするよう生徒の意識改革を行う。 ・授業の終わりに「振り返り」、授業のめあてに対する「自己評価」の時間を設定する。	・「一日の生活時間記入表」を毎日書くことによって、自分の生活を振り返ることができるようになった。 ・毎日の自主勉ノートに意欲的に取り組み、学習内容の理解が進むよう工夫した取り組みができるようになった生徒が増えた。	・「振り返り」の習慣をさらに身につかせ、自分自身の成長やより良い変化に気づかせる学習活動を充実させていく。 ・家庭でゲーム・スマホを使用する時間について、生徒自ら目標を立て、その目標を守っていけるような取り組みを行い、生活習慣の改善を図る。

令和3年度 学力向上ロードマップ

